紙面編集・佐崎智章 (第3種郵便物認可) 長崎新聞

核廃絶の願い ブラジルへ

「誓いの火」分灯式

来年の8.9 現地に点灯

被爆70年 ナガサキ

五輪発祥の地ギリシャから被爆地長崎に贈られた核兵器廃絶を願う聖火「ナガサキ誓いの火」が、ブラジル・フレイロジェリオ市の「平和の鐘公園」でもともされることになり、長崎市平野町の「ナガサキ誓いの火」灯火台前で29日、分灯式があった。海外への分灯は初めて。

ブラジルへ贈る「ナガサキ誓いの火」を田上市長から受け取る井上さん（前列右）＝長崎市、「ナガサキ誓いの火」灯火台前

同公園は、長崎で被爆し、戦後、ブラジルに移住した小川和己さん(2012年に死去)が、世界平和を願い私有地に整備。現在はフレイロジェリオ市が管理し、原爆の写真パネルなどを展示した資料館とともに被爆の実相と恒久平和を伝えている。

小川さんの遺志を引き継ごうと、生前に交流があった歌手の井上祐見さん(39)＝横浜市在住＝が「誓いの火」の分灯を提案し、実現した。式には関係者約120人が出席。田上富久市長が「現地で核兵器廃絶を伝える人が増えることを期待する」とあいさつし、「誓いの火」をともしたランタンを、井上さんに手渡した。

「誓いの火」は12月12日に現地に届く。同公園に新設する灯火台が完成後の来年8月9日に点灯式を開く予定。井上さんは「平和を願う長崎の思いを大切に届けたい」と述べた。(六倉大輔)

西日本新聞 2015年(平成27年)11月30日 月曜日 15版 社会 26

長崎の聖火 ブラジルへ

被爆者ゆかりの公園に分灯

「ナガサキ誓いの火」の下、ブラジルへ運ぶ大使として種火を託される井上祐見さん(左)＝29日、長崎市の平和公園

長崎市の平和公園内にあり、五輪発祥の地のギリシャ・オリンピアで採火した聖火がともる「ナガサキ誓いの火」が、ブラジル南部フレイロジェリオ市の平和の鐘公園に分灯される。同公園は、長崎市出身の被爆者で移住者の故小川和己さんが私財を投じて建設。29日、長崎市で分灯式があり、活動のきっかけをつくった歌手井上祐見(ゆみ)さん(39)＝愛知県出身＝が種火を受け取った。

誓いの火は、長崎市の市民団体が1983年、ギリシャ政府に「平和の象徴の聖火を送ってほしい」と要請し、同市に届けられた。87年に灯火台が完成し、現在は長崎原爆の日にちなんで毎月9日にともされる。

小川さんは61年に移住後、ブラジルで被爆者団体を率い、核廃絶を訴えてきた。ブラジル公演を続ける井上さんが2010年、平和の鐘公園内に完成した資料館を訪問。被爆後の長崎に関する資料を見学し「もっと長崎のものを持ち込みたい」と思い立ち、長崎の市民団体などの協力もあり、分灯計画が動きだした。

種火を託された井上さんは、12年に死去した小川さんをしのび「小川さんが40年以上かけ活動した思いを伝えたい」と話した。現地では12月13日(日本時間)に到着セレモニーが行われ、来年8月9日に灯火台に点灯される予定。(鎌田真一郎)